

慧日山東福禪寺は初め九条殿の別荘にして、地名を月輪つきわと号す。四条院宇嘉禎二年、月輪禪定兼実公かねざねの御孫光明峯寺道家公みやうぶし禪法みらいへに帰入し給ひ、聖一國師を請じて開山とし、常山を草創し給ふ。同四男鎌倉將軍頼經公よりつね頼嗣公よりつぐ兩代の時、諸伽藍悉成就す。塔頭五十余箇寺、境内の林泉洛南の妙境にして、東の山を光明峯と号け、通天橋は法堂と常樂との間にあり、額は普明國師の筆、橋下の楓葉洛陽の奇觀なり、選仏場の觀は無準の筆、衆寮を梅檀林といふ、額は同筆、龍吟水甘露水は山門の東南にあり、洗玉澗は通天橋の溪川をなづく、偃月橋は原虎嘯橋といふ、方丈と龍■即宗の間にあり。〔今の橋は慶長八年十月仁叔孝公尼首座再興〕千松林は通天の東林をいふ、法堂の額潮音堂は無準筆、妙雲閣は山門の額にして足利將軍義持公よしもちの筆なり、思遠池は山門の前の蓮池をいふ、無価軒は文丈の書院なり、臥雲橋は五大堂の南洗玉澗の末に架す、二老橋は五大堂と三聖寺の間にあり、五社宮は鎮守にして成就宮となづく、十三重石塔とうのせいは藤丞相道家公じやうみちいへ神託によつて建る、摩訶阿弥の旧跡は芬陀利華院東隣の空地なり、墓は鎮守の傍にあり、当山地主神靈といふ、重塔の際に大石残り、普明寺の内に開山塔あり常樂庵と号す、額は後光明峯寺ごくわうみやうぶし殿筆。なほ当山の古蹟名所多し、塔頭は次下に著す。

東福寺什宝

大政官牒

藕糸袈裟

壹頂

当山境内四至文 從光明峯寺殿下 贈開山聖一

○神明より開山國師へ付属す

蜀紅錦包物一片

○後水尾院ノ帝御寄付

菊貼錦包物一片

○桜町院帝御寄付

唐桑宝篋鍬一重

○女院御所御寄付

太神宮亀甲御襪子 開山感得片

開山自讚頂相

同 乾峰和尚贊

同 仏光国師贊

無準和尚筆

宋人仏鑑禪師と云

聖一国師の師なり

殿下道家公台翰

開山聖一国師筆蹟

持明院太上皇宸翰国師号

月輪殿寄進状

恵日山図 雪せつ舟しゅう筆

東州和尚 宋人開山法子

釈迦像 呉道子筆

左右文珠普賢 同 筆

仏鑑禪師自画讚頂相

左右捌々鳥 同 筆

元亨釈書 虎関和尚真蹟全部三十卷箱入

張旭草書

兀菴和尚書

陳季昭筆

方広鐘銘

六幅

一幅

一幅

一幅

貳幅

壹幅

貳幅

壹幅

貳幅

壹幅

一軸

貳幅

三幅

貳幅

壹幅

聖一和尚之四字光明峯寺殿台翰兼晴公奥書

壹幅

維摩像 顧■之筆

壹幅

跋陀婆羅像 雪舟筆

壹幅

顏輝筆

十幅

牧溪筆

三幅

門季昭筆

三幅

張即之筆

十一幅

呉道子筆

四幅

顧■之筆

壹幅

釈迦文珠普賢思恭筆

壹幅

竹樓記 陳季昭筆

壹幅

岳陽樓 同筆

壹幅

醉翁亭記 同筆

壹幅

承天寺額 無準筆寺は筑前なり

壹幅

方丈額 張即之筆

壹幅

旃檀林の額 同筆

壹幅

十六羅漢像 可翁筆

壹幅

五百羅漢像 兆殿司筆

五十幅

鉄拐玉蟾 同筆

貳幅

涅槃大像 同筆

壹幅

兆殿司筆

百三十幅

雪舟筆

二十幅

開山護摩具

壹箱

仏鑑禪師印箱 八幡宮神影入

壹箱

黄金舍利塔

壹基

内に仏舍利水晶塔に入外箱四重

朱塗唐櫃

■ 瑠茶台

(六十箇) 三箱

此外、代々帝王の勅書、將軍家の御教書、和漢高僧の墨蹟、名画の筆物、古器名品の類都て一千余种あり、繁によつて略レ之。且塔頭の院々は靈宝奇物頗多し、俱にこれを省く。

〔東福寺塔頭林泉によつて纜をこゝに挙る〕

○三聖寺〔北門の内にあり。古天台宗。釈迦阿難迦葉を仏殿に安ず、唐仏なり。両金剛は運慶の作。明徳年中足利義満

公建立、宝覺禪師を開基とす〕愛染明王〔八角堂に安ず〕

梟燈爐〔近年三聖寺の林泉に移す、古作火袋に梟の形を彫刻す。伝云、原此地は悪七兵衛景清の館なり、其時より

こゝにありしとぞ〕

○万寿寺〔今三聖寺に兼帯す、初は堀川院永長二年の草創、平治三年に禪宗に改む。五山の一寺なり。宝覺禪師を開山として樋口富小路にあり、天正年中敷地召上らるゝによつて、同き開山ゆへ三聖寺に於て仏殿兼用す〕

○靈源院〔龍泉和尚開基、什宝に韋駄天画像、仏舍利あり、後醍醐帝季皇子両の手に握り降誕し給ふとぞ〕

○海蔵院〔虎関和尚の住坊なり。和漢禪刹云、虎関和上、諱、師練、嗣東山宝覺、洛陽人、貞和二年七月廿四日寂、六十九歳〕

南北東西不定■。一孟三事是生涯。

虎 関

近来自笑如蜘蛛。到晩区々解造家。

○正統院〔聖一國師の法嗣月船和尚の開基なり。兆殿司もこゝに栖給ふて、稲荷の神感を蒙りて光明峯絵具谷より彩具を得給ふなり〕

○栗棘菴〔白雲和上を開基とす、諱は恵暁、諡は仏照禪師、永仁五年十二月廿五日当庵にて化す〕

○正徹叟墓〔当菴にあり、墓碑に云〕

清岩徹書記は紀氏、東福寺の僧にて和哥を好み、為尹卿の弟子と成、今川了俊と親く冷泉門下の志友たりし。菴を松月と号し、後山科に移り招月ともいひ、家の集を草根となづけ、なぐさめ草物語等世にのこれり。長祿二年五月九日七十九才にて寂せらる。其跡をしたひてこゝにいしぶみを立侍る。

○通天橋〔額通天、普明国師筆〕

普明国師行業実録云

寺後溪澗深邃而興開山祖塔阻絶。衆病之久矣。師親相攸芟榛除荒新開徑直。大路面架。橋梁于其上。扁曰通天。作偈賀之。

揮却風斤支落霞。虹霓千尺截奔波。

普明国師

通宵一路脚跟下。来往人從鳥道過。

○即宗院〔客殿の美觀なり。東の山間に茶亭あり採薪亭といふ、又其上に自然居士墓あり〕

○靈雲院〔不二菴と号す、湘雪和尚の住房なり〕遺愛石〔当院庭中にあり。相伝ふ、此名石初は肥後大守細川光尚侯の

持物なり。曾て湘雪和尚細川家にちなみて後にこゝに住す。其時大守より寺産五百石を与へんと命じ給ふ。湘雪拜謝して云、出家の後祿の貴は參禪の邪鬼なり、願くばこれに換て庭上の奇石を賜らば寺宝とすべしと乞ふ。因レ茲銘を遺愛石と号し、こゝに贈り給ふ。高さ三尺横四尺、岩頭に小松卷柏を樹る、石肌細やかにして色青し、台に石刻の須弥壇なる物あつて、其上に石槽をすへ、其中にあり、無双の名石なり。諸名家の記文あり、軸物兩卷に満る、初卷の二三をここに挙る〕

朝鮮竹堂詩

釈文

君不^レ見、蓬萊之山在^ニ海中、靈秀之氣鐘^ニ異石、水嘯^テ苔蝕^ス千年余、峯巒怪奇如^ニ刻画、造物偷^レ之出^ニ人間、天吳海若皆嗟惜、肥州太守好事者、愛^レ此劇^ニ於青娥眉、上有^ニ孤松蟠屈、龍之形、下有^ニ百卉点缀、瑤之姿、安^ニ排^ニ玉盆、置^ニ清池、日照^ニ中峯、生^ニ紫煙、浮^レ嵐滴^レ水清、漣、始伝此石産^ニ蓬萊、還道蓬萊在^ニ眼前、高軒置酒、車馬來、滿堂賓客皆回^レ頭、池畔石還為^ニ寺中有、問誰為^ニ其主、湘雪曾知故太守、問胡名^ニ遺愛、太守惠政人不^レ、上人一日三摩

書
■石色依^ル旧蒼松根、君不^レ見■山墮淚碑、載久^{シテ}龜龍剥^ス鱗甲、豈^{シカニヤ}如良岳靈雲上、雲物衛護^ス千百劫、齧、嚙字改

癸未孟秋下澣

槎客竹堂題

寬永二十年朝鮮^ノ信使、申濡字君沢、竹堂其号也、此篇其自書、艸法難^レ読、今就^テ真跡^ニ縮臨^シ、併附^テ釈文^ヲ、按^ル似^リ紫煙之下脱^ル二一句^ヲ、然^{トモ}真跡亦如^シ是、不^レ可^レ考也、姑俟^ツ博雅^ニ云

松■杜氏識

林道春詩 有序今不錄

巨掌劈開華岳胸。飛^テ為^ニ一朵玉芙蓉、只看湖口九峯異、何用陳朝三品封、惟石早聞供^{スルヲ} 仏印、名山曾愧對^{スルヲ} 周■、
按問遺愛點頭^{スヤヤ}否、須^ク乙^レ向^ニ生公堂下^ニ逢^フ甲、(石名遺愛^ニ故^ニ云)

寬永二十年十月中值

羅山夕傾巷叟

林春齋詩

奇石玲瓏淨几間、主人愛見小孱頑、靈雲一朵解^レ膚寸^ニ、泰岳巖根滿^ツ惠山^ニ、

寬永癸未孟冬日

春齋向陽子

石川丈山詩并序

湘雪禪翁之遺愛石者、非谷太守細川光尚公之所_{スル}寄也、奇形怪状、自然_{ニシテ}而然_リ、惟夫匪_ニ造化_ノ一尤物_ニ邪、可_シ謂_ニ戒
和尚希代之宝也_ト、慧嶺靈山崑墟層城崢_ニ■_{タリ}於凡_ニ■_ノ之間_ニ、足_リ以_ニ為_ル幽居_ノ之諦_ト、奇章之嗜_ミ、平泉之戒、袖中_ノ東海、心
裏_ノ蓬萊、可_ニ併按_ス矣、去歲韓使申濡、及東都羅山、其_ニ■_ノ旧齋、品_ニ藻斯石_ヲ、以_ニ為_ス潤色_ニ三子者之撰、各探_ニ得_ル龍珠_ヲ、
翹余_ス其鱗甲_ヲ、余又奚_ヲ言、雖_レ然如_乙言_ニ于魏榆_ニ化_{スル}於穀城_ニ者_ノ、彼之遠祖_ニ、我之同姓_也、烏乎益石古之遺愛也、況禪翁
之需_{シテ}有_レ所_レ拋、豈用固讓_{スルコトヲ}為_シ哉、迺_チ陳_ニ十韻之狂斐_ヲ、以_ニ統貂_{スル}而已、

一拳_ノ太湖石、万古小仇池、水匯連_ニ三島_ニ、雲晴秀_ニ九疑_ニ、危峯鋒刃競、峭壁画屏奇_也、鶴怪巢_ニ松樹_ニ、龍思_レ潛_ニ岸涯_ニ、
神功加_ニ白玉_ヲ、鬼斧削_ニ青磁_ヲ、徐_{カニ}出_ニ四明洞_ヲ、似_レ遊_ニ五岳岐_ニ、僊_ニ■_ノ曾在_レ此_ニ、仏日既相移、覓_レ句追_ニ蘇軾_ヲ、留_テ函觀_ニ
郭熙_ヲ、苟除_ニ元亮選_ヲ、又被_ニ遠公麾_ニ、遺愛為_ニ僧宝_ト、伝觀無_ニ尽_ル期_ニ、

三州泉人四明_ノ狂客石丈山涉_ニ筆於凹凸巷之詩僊堂_ニ

杜氏傲書

惠日の山に靈雲軒湘雪と聞ゆる大とこあり細川故越中の大守にしたしめる事久しければをのれをしれるもゆへなからし
大守身まかれりける後令嗣光尚の侍従ひとつの盆石をあたへりその久しくもたる具なればにやなづけて遺愛とせり上に
五粒の松あり千世のみどりをひさかへて召伯かやとしるといひけんむかしの梢におもほゆる此大とこ島このめる何がし
の宮にひとしきこゝろざしありけらしかゝるいはほにかへて見をけん人のちのいろはたあさからずこそはこれがために

つくれるからうたわが国のはかせのみにしもあらずこまの人すら長篇つらねてめですてもあらぬをなをあきたらぬあ
まりにをのれがつたなきことの葉だにくはへよとなるべしさるはその細川水のあはきまじはりをむすべるよすがとやい
はん裴相公の儘山を韓愈が和し危至能が徐生につけるためしはさらにいひ出づべくもなきをとかくいなふるにいとまあ
らでなん長歌ひとつかひやることしかなり

初しぐれ

ふりにし人は

長月や

ねざめの枕

そはたて、

耳てふ鐘の

寺の名に

かよへる石に

残りける

そのいつくしみ

今もなを

しのぶあまりに

名づけゝん

人をしとへば

難波江や

よしもあしゝも

もろともに

ほたつあらざる

いほりもる

法の師ならし

いでやこの

世にながれたる

みなもとは

かの細川の

水のあはの

きえてし後の

形見とも

今はた見よと

あたへけん

情もふかき

太山路や

柴の戸ぼその

明ぐれに

あふげばたかく

きれはげに

かたき契の

たぐひにも

千年の松の

種しありて

をふるいはほは

あまおとめ

羽衣ならぬ

巻もくの

こけの袖もて

なでざらめやは

さゞれ石のなれるいはほの陰たかみむかしをとくおもひこそすれ

権中納言基理卿

こゝに物あり遺愛石となづくそのいはれは名高き人々の唐やまとの

ことの葉にのせをきたまひぬやつがれもある人にすゝめられて蜂腰

一首をになひ出て

さゞれ石のなれるいはほに生いでし松もちとせの陰をそへつゝ

前参議持豊卿

みやこのひんがし恵日の山なる靈雲院西菴和尚はへだてなき友がきにて侍るかの院にひとつの石あり其かた

ちあやにたへなりこは寛永のむかし肥のくまもとの城主のめでおぼしけるをなきあとのかたみにとて院主湘

雪和尚にたうびけるとなんよりて遺愛石となづけられける時に名だゝる人々にからやまとのことの葉をこひ

てつらねてひとまきとなしぬそのこと葉たくみにして春の花のにしきをかざり秋の月のさやかなるにひとし

西庵和上もまたむかしにならひて今の世のひとぐの漢やまとの歌をあつめてさらに一卷となさまくほりし

て予にも和哥よましめらる才のはしかきをはぢおもへばすまひがたくて

ほしうつりものかはれども庭の面のいしのみどりぞよゝにふりせぬ

紹 膺

寛政むつのとし神無月はじめの五日これをしるす

○正覚院〔庭中の池を松月池といふ、客殿は前田徳善院伏見よりこゝに移す〕

○莊嚴院〔林泉風景ありて奇岩あり、双鶴石、獅子石といふ。当院は乾峰和尚の開基にして、仏殿に乾峯の筆正統の額

あり〕

○南明院〔大檀那は豊太閣秀吉公の御妹朝日姫、国初將軍家の御簾中なり、天正十八年庚寅正月十四日聚楽館にて薨去

し給ふ、四十八歳、南明院殿光室宗王大禪尼と法諱す。開基恵日山百十世業仲和尚、諱明紹、永享六年十月十日入寂〕

○兆殿司墓〔南明院南の山中にあり、吉山明兆と号す、業仲和尚の法兄なり。永享三年辛亥八月廿日寂す、八十一歳〕

俊成卿墓〔同所にあり〕○俊成卿女墓〔同所にあり、浄如尼と号す、或カ云、俊成公の母の墓とぞ、謬なり。四至文の

年歴相違へり。此傍に古墳多し、法諱詳ならず。原は法性寺の地なり、こゝに永明院を創す、一代の院主地を分て南明

院を建る、此墓今南明院の地なり、左の置文永明院にあり〕

其置文云

法性寺俊成の卿御はか山林の事

合

一ひがしは上のいなりのかへりさかひさもん堂谷へゆき、みちのとをり南へのたにをかぎりてなり

一南は西東へのたにこいけの上下南の山きはをかぎりてなり

一西は山だのにしきた南へのぼりをかぎりてなり

一北はいなりのかへりさかのみちをかぎりてなり

右の御はか山下地とも此ふんにて候べし後のため註して候べく候

かうあん二年八月五日

浄如判

古文書云 俊成卿墳墓事、自三月見殿可相計之由承候之際申付当院候、殊灑掃墓壇守護竹木可被訪彼亡

魂菩提給上候也、恐々謹言。

八月廿七日

祖 禅 判

永明院僧衆御中

〔祖禅ハ東福ノ住持芬陀利花定山和尚なり〕

東野州聞書云 或人語しは、俊成卿の墓東福寺の永明院の奥の山にありと申せしなり。此永明院の主にておはします

間、毎月廿九日今も弔ひ奉るとかや。毎朝大悲咒一反あり、回向には五条三位俊成釈阿と入よし、やがて彼院の僧

申なり。

嵯峨記（藤原植通）云 東福寺南明院は俊成卿の建立にて侍る。

於_二永明院俊成卿墓_一

雪玉集

敷島の道にはおやの親の跡ととふをばしるや露の古郷

実

隆